

— 2 0 1 4 —

平成 2 6 年度事業報告

自 平成 2 6 年 4 月 1 日

至 平成 2 7 年 3 月 3 1 日

平成 2 7 年 6 月 2 1 日

公 益 社 団 法 人

国民文化研究会

事務所 〒150-0011 東京都渋谷区東1-13-1-402
TEL 03-5468-6230 FAX 03-5468-1470

平成26年度事業報告

公益社団法人 国民文化研究会

はじめに

本会主催の「全国学生青年合宿教室」は、昭和31年8月、鹿児島県・霧島で第1回を開催して以降、本会の基幹事業として毎年欠かさずに開催して、59回目を迎えました。平成26年の合宿教室は「先人の“詩と哲学”に生きるあかしを見出そう！」との合い言葉のもと、豊かな自然に囲まれた兵庫県南あわじ市「国立淡路青少年交流の家」において、大学生・社会人及び関係者108名の参加者が集い、会内外の講師による講義・古典輪読・班別研修等によって、学問・人生・祖国のあり方を心ゆくまで語り合う真剣な研鑽が行われました。

合宿後には、会員有志によって編集された『参加者感想文集』及び合宿レポート『日本への回帰』第50集が刊行され、合宿での研鑽の様子を会員、賛助者をはじめ多くの方々にお伝えしました。また合宿参加者は合宿で出合った班員との交流を開始し、友情を深めることが出来ました。また、関東、関西、九州等の各地の学生及び社会人を交えて大学内、公私立施設、又は会員の自宅における常設の研修活動（輪読会、読書会、「短歌の会」、テーマ毎の研究会等）も自ずから活性化することとなりました。これらの活動は、それらの会に参加する者同士が、お互いに切磋琢磨し学問する場であると同時に、多数の方々を対象に伝統文化の普及や思想啓発のための講演会・懇話会の開催といった活動に繋がってきています。

一方、内政・外交・教育の各方面では益々問題が錯綜していますが、私ども会員一同は、心を新たにして、本会の目的である「日本の長い歴史の中に蓄積された祖先の足跡を学び、国民各層への伝統文化の普及に努めるとともに、国内外で活躍する有為な青年の健全な育成を推進し、もって学術・文化の振興並びに豊かな人間性の涵養に寄与する」ことに向かって、地道に邁進しておりますことをご報告いたします。

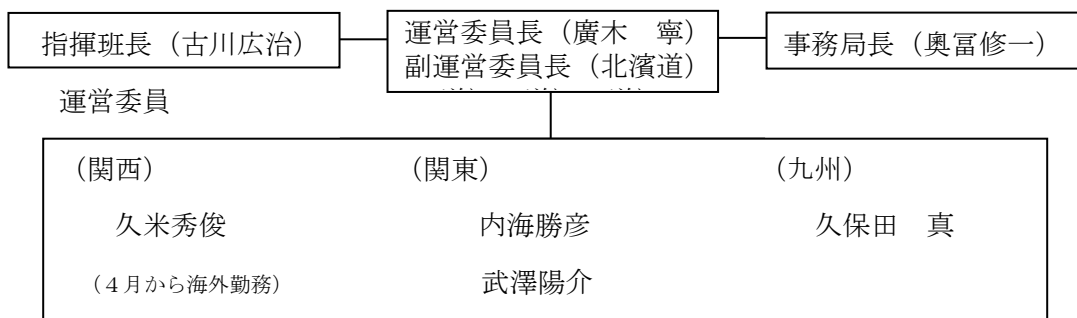
以下、当該年度の年間事業をご報告申し上げます。

I. 研修事業（公益目的事業）

1. 年次研修会としての「合宿教室」の開催

① 第59回「全国学生青年合宿教室（淡路）」の開催

平成26年9月5日（金）から8日（月）までの3泊4日間、兵庫県南あわじ市「国立淡路青少年交流の家」で開催いたしました第59回「全国学生青年合宿教室」は、京都大学名誉教授・中西輝政先生のご講義を中心に、本会会員による諸講義を加え、108名の参加者を得て各種行事を滞りなく遂行し、実り多い成果を上げることが出来ました。合宿運営委員を下記します。



②第59回合宿教室『参加者感想文集』の刊行

上記の「合宿教室」に参加した学生・青年が、終了間際に記した感想文をまとめた『参加者感想文集』を例年通り刊行いたしました。会員の北濱道氏を中心に、池松伸典・蔭山武志・高木雅史・濱崎史嘉・佐野宜志・相澤守の各会員諸氏の協力のもとに、A5版83ページにまとめ、カメラマン中澤武之氏の撮影によるスナップ写真を挿入して短期間で仕上げることができ、平成26年12月15日に1,350部を刊行しました。合宿参加者と正会員、賛助会員へは早速送付し、賛助者はじめ江湖の方々には、『日本への回帰—第50集』（平成27年3月9日発行）と共にお送り申し上げます。各方面からお褒めのお言葉をいただき、本書が本会活動の内容を世間にお知らせするのに、またとない資料となっていることを改めて確認した次第であります。

③第59回合宿教室レポート『日本への回帰—第50集』の刊行

前記の第59回合宿教室のレポートである『日本への回帰—第50集』は、会員の森田仁士氏、高橋俊太郎氏の現地録音作業によるテープを基にして、東京地区在住の山内健生・磯貝保博両氏を中心とする同人たちの協力で、新書版265ページにまとめられ、平成27年3月9日に1,400部を刊行し、合宿参加者全員にも発送致しました。

(平成27年度もまた『日本への回帰—第50集』の頒布について、絶大なお協力を頂きたく存じます(頒価は900円、送料は1冊215円です)。

④第60回合宿教室の開催準備

第60回目を迎える「合宿教室」は、静岡県御殿場市の「国立中央青少年交流の家」で平成27年8月29日(土)から9月1日(火)までの3泊4日で開催されます。すでに合宿運営委員長の伊藤俊介氏以下7名の運営委員を中心に活発な準備作業を進めています。

2. 常設研修会としての全国各地での活動

「合宿教室」の開催を軸とする、全国各大学での学生達による学風刷新と同信の友との研鑽活動は、各地在住の本会若手会員(社会人)の助言、指導もあって、引続き充実した歩みが見られました。各地区の学生と社会人を交えての輪読会・読書会・「短歌の会」・古典研究会が全国的に展開されました。

【北陸地区】

富山在住の会員岸本 弘氏が主宰する輪読会が継続して開催されました。平成23年に古事記編纂1300年を記念して同氏が編集した『朗読のための古訓古事記』をテキストにしています。

- ・かたかごの会(主宰 岸本 弘氏)(富山県立「高志の国文学館」)…黒上正一郎著『聖徳太子の信仰思想と日本文化創業』および『朗読のための古訓古事記』の

輪読

- ・「古事記」を読む会（主宰 岸本 弘氏）（小矢部市文化スポーツセンター）・『朗読のための古訓古事記』の輪読

両会の主催による講演会が小矢部市文化スポーツセンターにて行われた。音楽を取り入れたり、懇談会を取り入れたりとした新しい試みがなされ、同地区において定例の行事として定着しつつあります。

- ・第四回講演会 平成26年5月18日(日)

演題及び演者「日本の歌に思ふ一宗田徹也氏（古事記を読む会）」

「万葉人と『古事記』の世界—岸本 弘氏」

【関東地区】

関東地区では多くの研修会が継続開催され、渋谷の東京事務所のセミナー室で主として開かれました。（会名の後の括弧内は主宰者、又は世話人）

（学生を中心としたもの）

- ・「国文研塾」（北濱 道氏）（毎週1回、又は隔週）…吉田松陰の遺文の輪読
- ・小林秀雄著『本居宣長』読書会（北濱 道氏）（毎月第2日曜日）…当該テキストの國武忠彦会員による講読
- ・青雲会（平成26年3月まで）（市川絢也神奈川大4年）（毎月第1土曜日）…『朗読のための古訓古事記』、『古事記のいのち』輪読

（社会人を中心としたもの）

- ・短歌の会（佐野宜志氏）（毎月第4土曜日）・・・短歌創作相互批評
- ・四土会（内海勝彦氏）（毎月第4土曜日）・・・黒上正一郎著『聖徳太子の信仰思想と日本文化創業』の輪読
- ・聖徳太子研究会（山内健生氏）（毎月第2土曜日）・・・四天王寺本『法華義疏』の講読

- ・柴田会（柴田悌輔氏）（毎月第3土曜日）・・・小林秀雄著『本居宣長』の輪読
- ・調つきの会（飯島隆史、岸野克巳氏）（毎月1回、不定期）・・・本居宣長著『古

事記傳』の輪読

- ・北鎌倉輪読会（関口靖枝氏）（鎌倉芸術館又は円覚寺伝宗庵）
 - ①（毎月第四日曜日）…小林秀雄著『本居宣長』輪読
 - ② 奇数月の第3日曜日）…小柳陽太郎他編著『名歌でたどる日本の心』輪読
- ・日本の国柄と皇室に関する研究会（大岡 弘氏）（隔月1回土曜日）・・・小田村寅二郎、小柳陽太郎共編『歴代天皇の御歌』の輪読及び研究発表
- ・興風会（伊藤俊介氏）（月1回日曜日）…小田村寅二郎『昭和史に刻む我らが道統』の輪読
- ・神奈川県教育問題研究会（國武忠彦氏）…教育に関する実践活動の報告

【関西地区】

関西では会員の久米秀俊氏を中心とした輪読会が平成26年3月まで京都市、及西宮市で開催され、4月からは社会人と学生とが吹田市にて輪読会を行いました。

- ・吹田輪読会（北村公一氏、）（月2回金曜日）…吉田松陰著『講孟割記』の輪読

【福岡地区】

福岡地区では多くの研修会が継続的に開催されました。主として「栲寺子屋モデル」の会議室を借用して開かれました。

（学生を中心としたもの）

- ・九大会（廣木 寧氏）（毎月2回月曜日）（寺子屋モデル会議室）…小林秀雄著作の輪読、吉田松陰著『留魂録』輪読
- ・福大寺子屋塾（廣木 寧氏、）（平成26年前期月2回）（福大ゼミ室、図書館）…平泉澄著『少年日本史』輪読、『教育勅語』輪読

なお、福大寺子屋塾では廣木運営委員長の指導の下、福大の学生は年間を通じて次のような活動を展開した。

- ・第七回福大文化講演会（講演者 山口秀範氏）（平成26年7月2日）
- ・第八回福大文化講演会（講演者 遠藤恭介氏）（平成26年7月7日）
- ・新山會（古川広治氏）（毎月二回）…平泉澄著『少年日本史』及び関係資料の輪読

（社会人を中心としたもの）

- ・福岡国民文化懇話会(中島繁樹氏)(毎月第3土曜日)・・・本会会員講師による講義形式の研修
- ・太子会(藤新成信氏)(毎月1回日曜日)・・・黒上正一郎著『聖徳太子の信仰思想と日本文化創業』、『黒上正一郎先生のうたと消息』輪読
- ・小柳陽太郎先生を囲む勉強会(山口秀範氏)(毎月第2火曜日)・・・小柳陽太郎他編著『名歌でたどる日本の心』輪読
- ・眞木和泉守研究会(志賀建一郎氏)(毎月1回不定期)・・・眞木和泉守直筆『南遷日録』の読み合せ
- ・古典輪読会(志賀建一郎氏)(毎月1回土曜日)・・・『日本書紀』の通読
- ・古義會(廣木 寧氏)(毎月第1土曜日)・・・会沢正志斎著『新論』輪読
- ・皐月會(廣木 寧氏)(年1回廣木宅宿泊研修)・・・皐月会会員による研究発表—「沖繩の戦ひ」吉村浩之会員
- ・鳥の郷古典素読会(西山八郎氏)(毎月1回木曜日)・・・日本古典の素読。『蘭学事始』『おくのほそ道』『うひ山ふみ』等

【熊本地区】

- ・三土会(久保田 真氏)(毎月第3土曜日)・・・黒上正一郎著『聖徳太子の信仰思想と日本文化創業』通読
- ・社会人の勉強会(久保田 真氏)(毎月第1火曜日)・・・岸本 弘編『朗読のための古訓古事記』輪読

【鹿児島地区】

- ・輪読と昭和史勉強会(野間口俊行氏)(毎月第2水曜日)・・・戸田義雄著『祖国と人類の悲願—諸民族の聖魂—』輪読、歴史教科書の比較検討

II. その他の事業

1. 会報の発行

会報(月刊『国民同胞』)は、会員の研鑽の成果を世に問うという伝統を踏襲しつつ、また新しい企画も加えながら2,000部を継続刊行し、期末で第641号目の発行となっております。(年極めの購読料は送料共2,000円) なお50号毎の合本も第12

巻までを頒布しております。(各巻とも頒価2,400円、送料450円。申込先は国文研東京事務所、但し、1～5巻は品切れ)

2. 講演会の開催

第17期(第26回)を迎えた「国民文化講座」は、平成26年6月14日(土)、靖國神社「靖國會館」に、評論家・拓殖大学客員教授石平先生をお迎えして開催されました。演題は「日本は中国からの脅威にどう立ち向かうべきなのか」で、約200名が聴講しました。

3. 顕彰事業

本会恒例の慰霊祭は、平成26年9月23日(祝日)午後3時から飯田橋の「東京大神宮」において厳粛に執り行われました。ご遺族を含め47名の方にお集まりいただき、全国から献詠歌が多数寄せられました。また、同年8月17日には福岡市南郊の油山中腹の泪が原に関係者20名が集い、昭和20年8月20日、敗戦の責めを負い自刃された長島秀男海軍技術中佐と寺尾博之海軍少尉の慰霊祭が執り行われました。

4. 短歌通信の発行

本会の会員を中心とした短歌創作の実習の場として、あるいは会員相互の近況連絡の場として、全国各地から寄せられた短歌が随時『短歌通信』として澤部壽孫副理事長の編集によって継続発行がなされました。

Ⅲ. 管理部門

1. 創立60周年記念事業・実行委員会の設立

本会は昭和31年の創立から平成27年に60周年を迎えることとなります。前回の50周年記念事業を踏まえて各種記念事業を企画促進すべく澤部副理事長をリーダーとして実行委員会が発足。平成27年11月7日(土)の記念の集いに向けて準備を開始しました。

2.情報発信の基盤強化

本会のホームページ上に本会の事業活動の紹介はもとより、基幹事業である「学生青年合宿教室」及び本会主催の「国民文化講座」をはじめ各種講演会や諸行事及び各地での読書会、輪読会等の案内を掲示し紹介し、「合宿教室」の参加勧誘及び会員相互の研鑽情報の提供に成果を挙げています。またインターネットのメールによる会員相互間の連絡、意見交換が引き続き活発化しております。最近ではホームページを通じての学生の「合宿教室」参加申込みも顕著になって参りました。

平成26年1月には本会のフェイスブックを開設いたしました。会員島津正数氏を管理者として、活発な情報発信をはじめております。多数の方々に本会の活動を理解してもらうためにも有効な手立てであると考えております。